

「教師として自分はどうかあるべきか、と考えてみた」

大学院・教育 平成21年修了 坂出市立東部小学校 森 浩輔

私は香川大学にお世話になったのは、今から10年前になります。当時勤務していた学校から内地留学という形で、2年間大学院に通いました。高校卒業後、他県の大学に進学いたしましたので、香川大学は地元でありながら、少し遠い存在に感じておりました。

大学院では、保健体育研究室に所属し、教育現場では体験することのできない貴重な時間を過ごすことができました。当時お世話になりました先生方や学生の方とは、現在も公私ともにお付き合いをさせていただいております。

その後、坂出市教育委員会主任指導主事採用として3年間教育現場を離れ、教育行政に携わることとなりました。20年近く教員として生きてきた自分にとって、教育行政の世界はそれまでの常識を問い直すことの連続であり、心身ともに非常にハードな日々でした。しかし、今、振り返って考えてみると、貴重な機会をいただいたと感謝しております。

それは、「教育」ということをさまざまな視点で見たり、違った立場で捉えたり、教育現場に携わっていない方のご意見をお聞きしたりすることによって、「教師」という仕事がいかに重要で責任が大きいものであるか、ということを感じたからです。「教師」は、日々目の前の子どもたちと向き合い、教育の最前線に立っています。その大変さは、言うまでもありませんが、実は、子どもに向き合っているのは、我々教師だけではないということです。子どもを産み、育て、日々悩んでいる保護者や家族の方々、家庭の子育てを支援して下さる地域や関係機関の方々、人的・物的環境整備等により教育現場を支えていただいている教育委員会をはじめとする教育関係者の皆様、多くの方々の支えにより、我々教師は子どもたちと接する最前線に立っているということが理解できました。

このことは、これから教育に携わる人間として、大切な視点ではないかと感じています。これからの社会の急激な変化と子どもが抱える問題の難しさに対応するためには、いつ・誰に・何を問われても、説明責任を果たせることが求められると考えています。そのためにも、教師であることと同時に、社会の一員として広い視野をもち、バランス感覚を意識した言動が必要です。

ただ、これらのことより、もっと大切で忘れてはならないものがあります。それは、昔から変わることのない、私が先輩方から学んできた「教師の教育に対する情熱」です。